

## 施工管理基準

・本工法は吹付法枠工、簡易吹付法枠工に属する為、施工管理は原則吹付法枠工に準じてください。

### (1) 品質管理

- ・本資料に記載無き事項は従来の吹付法枠工と同じ管理を行ってください。
- ・モルタルの設計基準強度は $\sigma 28-18\text{N}/\text{mm}^2$ 以上です。
- ・モルタルの現場配合基準は次表のとおりです。但し、「のり枠工の設計・施工指針」ではセメント量 $400\text{kg}/\text{m}^3$ 以上となっていますので、 $400\text{kg}/\text{m}^3$ で圧縮強度が $18\text{N}/\text{mm}^2$ 確保できるのであれば配合変更してください。この場合、発注者に価格訂正の申し出をしてください。

セメント	W/C
$420\text{kg}/\text{m}^3$	60%以下

\*混和剤を使用する場合は  
施工時期、現場状態で判断してください。

- ・圧縮強度試験、細骨材の表面水率試験、塩化物総量試験の試験頻度に付いて、「のり枠工の設計・施工指針」による管理基準(例)では次表のようになっています。発注機関と相談のうえ決定してください。

圧縮強度試験	50 $\text{m}^3$ もしくは5日に1回
細骨材の表面水率試験	1日に1~2回
塩化物総量試験	当初及び5日に1回

「のり枠工の設計・施工指針」  
改訂版 平成18年11月  
(社)全国特定法面保護協会  
P.68 解説表7.3.1

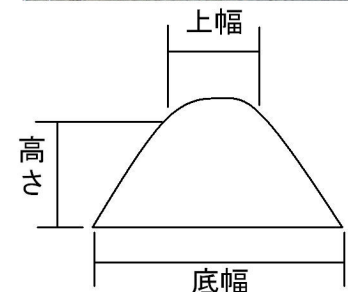
### (2) 写真管理

- ・従来の吹付法枠工、簡易吹付法枠工と同じ管理を行ってください。

### (3) 出来形管理

・アールティーフレーム工法出来形管理基準

項目		基準値		頻度
鉄筋重ね幅		設計以上		200 $\text{m}^2$ 毎
鉄筋のかぶり		36mm以上		1工区
断面	上幅	基本設計以上	局所-1cm	2箇所以上
	底幅	基本設計以上	局所-3cm	
	高さ	基本設計以上	局所-2cm	
法枠中心間隔		+10cm		



- ・鉄筋重ね幅の設計値は設計計算結果を適用してください。
- ・鉄筋のかぶり

$$\text{最小かぶり} = \alpha * C_o$$

$$= 1.2 * 30\text{mm} = 36\text{mm}$$

$\alpha$  = モルタル設計基準強度が $18\text{N}/\text{mm}^2$ の場合 1.2

$C_o$  = 基本のかぶり 30mm

- ・ラス張り、枠内吹付工は従来と同じ管理を行ってください。